

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 7 月 15 日現在

機関番号：47201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2019

課題番号：26370260

研究課題名(和文)朝鮮総督府発行教科書・教授書・編纂趣意書に見られる「同化思想」の形成について

研究課題名(英文)On the Formation of "Assimilation Thought" in Textbooks/Professor Books/Compilation Briefs issued by the Government-General of Chosen

研究代表者

長澤 雅春(NAGASAWA, MASAHARU)

佐賀女子短期大学・その他部局等・教授

研究者番号：00310920

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：1910(明治43)年8月の日韓併合以後、朝鮮内の抵抗を抑えつつ朝鮮総督府は普通学校制度を主軸として朝鮮経営に力を注いできた。朝鮮の子らの入学する「普通学校」は、朝鮮において日本人学童が通う「初等学校」とは区別されていた。普通学校で使用する教科書は文部省版をそのまま用いるが、挿絵、仮名遣い表記、単元内容を普通学校用に編纂し直した。そうして「併合」を実践するための「同化」政策を推し進めてきたことを本研究では調査してきた。そして教科書のみならず、新聞・教育誌・文芸誌・映画などのメディア媒体を通じて「同化」思想のありようも調査・考察してきた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

併合下の同化政策についてはこれまでも考察されてきているが、その根本となる普通学校において使用された普通学校教科書、及びそれを文部省版と異なる版にするために編纂の趣旨を述べた編纂趣意書、そして『朝鮮』『文教の朝鮮』などの教育誌などの膨大な資料収集に基づく考察は、たいがいの資料が韓国内に蔵書されているため、これを行う研究者が多くない。そのような状況の中で本研究課題の調査は学術的に意義ある者になっている。また、本研究は、韓国映像資料院からの併合下における貴重な復刻映画資料の提供も受けており、メディアによる同化思想を考察する手立てともなっている。

研究成果の概要(英文)：After the annexation of Japan and South Korea in August 1910 (Meiji 43), the Government-General of Chosen has been focusing on the management of Korea centering on the ordinary school system while suppressing the resistance within Korea. The "normal school" where Korean children enter was distinguished from the "primary school" where Japanese school children attend in Korea. The textbooks used at normal schools use the Ministry of Education edition as is, but the illustrations, kana name notation, and unit contents have been recompiled. In this research, we have been investigating that we have promoted the "assimilation" policy to practice "merging". And I have investigated and considered not only the assimilation thought through media such as newspapers, educational magazines, literary magazines, and movies, as well as textbooks.

研究分野：日本近代文学

キーワード：朝鮮総督府 国語政策 教科書 編纂趣意書 同化政策 朝鮮文学 朝鮮映画

様式 C-19、F-19-1、Z-19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究の開始当初は、朝鮮総督府が編纂発行した教科書を韓国内図書館において収集し、これを文部省版教科書と対照させて朝鮮総督府版教科書の独自性を調査してきた。これは外地における国語政策がどのようなものであったかの一部を知るための作業であったが、今回の課題ではさらに「同化」がいかなる思想や方法によって行われ、それが教科書のみならずメディアや朝鮮文学及び朝鮮文壇においてどのように機能していたのかを調査・考察するものであった。

2. 研究の目的

これまで、朝鮮総督府が発行する教科書、とくに『普通学校 国語読本』『普通学校 修身書』の内容を文部省版と対比しながら注視してきたが、朝鮮総督府版教科書は、内地文部省版を翻刻改訂することで成り立っていた。そこには根本的にどのような意図があるのか、それを解く鍵が編纂趣意書であり、また編纂者が朝鮮で刊行される総合誌に掲載する関連論考である。また、教科書を編纂する側である学務官僚の朝鮮教育と内鮮一体=同化の思想については、1919年の朝鮮全土における3.1独立運動の前後における学務官僚の「同化思想」は、大幅な思想的転回を見せている。この転回の主軸にあるのが第二次朝鮮教育令であるため、学務官僚の思想と転回が、朝鮮総督府版教科書及び教授書、編纂趣意書にどのように表象されているのか、第二次朝鮮教育令を前後する朝鮮教育思想と同化思想を明らかにすることを目的とする。

また、朝鮮教育と同化の在り方について植民地経営の主体である日本の側から見るのでは近視眼的である。そのため、朝鮮教育下に成長した植民地の子らが青年期に至って自らの将来をどう見据えようとしていたか、植民地下で製作された朝鮮映画や成長した朝鮮文学及び朝鮮文壇からの「同化の受入れ思想」についても考察することを目的としている。

3. 研究の方法

本研究は、研究代表者たる長澤が単独で行うものであり、韓国で大学教員としての滞在期間中及びこれまでの科研費採択課題において韓国内図書館で収集してきた、およそ5万頁分の朝鮮総督府発行教科書類・言論書籍の分析を通して、帝国期の日本が朝鮮政策における「同化思想」をどのような経過によって形成していったかを明らかにしようとするものである。①教科書分析では『普通学校 国語読本』『普通学校 修身書』を中心として『教授書』『編纂趣意書』を含んだ。②教科書作成者・学務官僚・国語学者・言論者の「同化思想」の考察。③文芸誌『国民文学』、一般誌『緑旗』『朝鮮公論』などに掲載される朝鮮知識人たちの文芸作品及び論考から「同化」についての思考を考察し、併合下に製作された朝鮮映画のシナリオも考察の対象とする。

4. 研究成果

(1)

2013年に、『国民文学』を主宰する崔載瑞の長女崔洋姫氏が移民したオーストリアのシドニー一宅において、『国民文学』刊行当時の父親の文学的思考や刊行にまつわる周辺事情、周辺人物等について3日間にわたるインタビューをおこなったが、そのときのビデオ起こしを行った。このインタビュー内容の一部を2014年に韓国の一般誌『朝鮮』に掲載する予定であったが、崔洋姫氏と出版社側とで内容について折り合いがつかず、掲載は見送られることになった。しかし、掲載されるはずだった内容については、貴重なものを含んでおり、親日派として解放後に生きる崔家族のその後の韓国からの移民の状況などが語られている。またこのインタビュー内容については、全北大学で開催された(2016)東アジア日本学会において、「崔洋姫氏の語る父崔載瑞と『国民文学』の記憶」を発表した。韓国においても『国民文学』の研究は今後の課題となるため、刊行当時の崔載瑞の言動については注目されることとなった。

(2)

釜山広域市立市民図書館に所蔵される日帝期刊行図書(調査当初は未整理のまま書庫にしまわれてあったが、現在は原本に触れることがないよう複写本のみ閲覧できる)し、『佐賀女子短期大学研究紀要』(2015～2018)に(1)～(4/完)として目録掲載した。掲載件数は1,832件である。当初は長澤の研究サイトに随時掲載して所属する機関のHPにリンクしていたが、所属機関HPのリニューアルによってリンクができなくなったため、紙媒体による調査報告としておこない完結することができた。それまで馴染みのなかった当該図書館であったが、現在は蔵書調査に訪れる日本人研究者がしばしば来館するようになったと聞いている。

(3)

2016年度、佐野正人氏(東北大学大学院国際文化研究科)の科研費採択課題「日韓歴史認識問題と展開」と長澤の当該課題とのジョイントグループワークを「メディア/大衆文化の日本・韓国」というテーマで市民公開型講座として佐賀女子短期大学で行った。韓国からは韓国映像資料院主任研究員の鄭琮権氏、慶熙大学教授・映画評論家の李孝仁氏(前韓国映像資

料院院長)、李恵真氏(世明大学教授)、梁仁実氏(岩手大学)らを招聘した。これは、日韓併合期における朝鮮におけるメディアと朝鮮教育、その背景など様々な角度から日韓関係について討議したものである。長澤は「1920年代朝鮮教育制度化の朝鮮映画の主人公たち」として発表した。これまで韓国映像資料院が中国やロシアで発掘してきた朝鮮映画では、朝鮮教育下で育ち成長した若者が主人公となるが、高等教育までの教育を受けながらも墮落した生活を送るという共通した行動様式が認められる。それは、高等教育を受けながらも二等国民であるがゆえに、将来への絶望から積極的に親日派となるか、もしくは抵抗して職に就かず自暴自棄になって実を破滅させていくという作品が少なからず見受けられる(とくに『アリラン』は代表的な作品であるが、本作はシナリオのみが復刻されている)。同化への抵抗は高等教育を受けた若者に顕著であったのではないかと伺える。したがって、プロレタリア文学、農民文学などが朝鮮近代文学の形成後10年ほどで早くも登場してくるのは、朝鮮教育の同化政策が性急に行われたための傾向であるかもしれないが、これについては朝鮮文学史をさらに検証してみる必要があると考えている当たり前のことだが、帝国日本の政策者による願望的な同化理念と、実際に朝鮮教育を受容した若者たちの間には埋められない溝があったと言える。とくに、「若者」という点が重要だと考える。

(4)

1919年の朝鮮全土における3.1独立運動は日本の学務官僚を怯えさせたはずである。それによって学務官僚の「同化思想」は、申請者の調査ではこの3.1独立運動を境として大幅な思想的転回を見せることとなった。弓削幸太郎の考える3.1以前の同化思想は、内地人が朝鮮人にたいして経済的な優位に立つことによって、朝鮮人の好むと好まざるにかかわらず強制的に同化させるという思想であるが、3.1後に学務官僚として赴任した大野謙一の同化論では、朝鮮教育が朝鮮の子ら及び若者を啓蒙し、よってそこに民族的な覚醒を得、そうすれば優位性にある日本人への同化を自らが目指すものだ、という思想である。この転回の主軸にあるのが第二次朝鮮教育令であり、この第二次朝鮮教育令はきわめて重要なものとなっている。下表は、日本人対象教育令及び朝鮮教育令の変遷を俯瞰したものである。

年	教育令	朝鮮人教育	日本人教育
1900(明治33)	小学校令改定(国内) 8.20	小学校令 1895~1905(韓国)尋常科(3年・8歳~11歳) 高等科(2年~3年・11歳~13歳・14歳) 中学校尋常科(4年・17歳~21歳) 高等科(3年・21歳~24歳)	尋常小学校(4年・6歳~10歳)義務教育 高等小学校(2年~4年・10歳~14歳) 中学校(5年・12歳~17歳、補習科1年) 計11年~12年
1906(明治39)	普通学校令(韓国保護期) 日本人/韓国人	普通学校(4年・8歳~12歳) 高等普通学校(4年・12歳~16歳、補習科1年) 計8年~9年	
1907(明治40)	小学校令一部改正 3.21 41.4より実施(国内)		尋常小学校(6年・6歳~12歳)義務教育 高等小学校(2年・12歳~14歳) 中学校(5年・14歳~19歳) 計13年
1911(明治44)	第1次朝鮮教育令 一視同仁 内地人/朝鮮人	普通学校(4年・8歳~12歳) 高等普通学校(4年・12歳~16歳、補習科1年) 計8年~9年(内地学校と不連絡)	
1920(大正8・9)	中学校例改正(国内) 第1次朝鮮教育令改正 国語ヲ常用スルモノ 国語ヲ常用セザルモノ		中学校予科2年(10歳~12歳)を置く(昭和18年まで)
1922(大正11)	第2次朝鮮教育令 4.1 国語ヲ常用スルモノ 国語ヲ常用セザルモノ	普通学校(6年~4年・6歳~12歳)(高等科2年・12歳~14歳) 高等普通学校(5年・12歳~17歳、補習科2年) 計11年~13年(補習科2年を加えて内地の学校と連絡)	
1929(昭和4)	第2次朝鮮教育令改正 6		

1938(昭和 13)	第 3 次朝鮮教育令 3. 3	尋常小学校(6 年・6 歳～12 歳) 高等小学校(2 年・12 歳～14 歳) 中学校(5 年・12 歳～17 歳) 計 13 年	
1941(昭和 16)	国民学校令 2. 28(国内) 第 3 次朝鮮教育令改正 3. 25		国民学校 初等科(6 年・6 歳～12 歳) 義務教育 高等科(2 年・12 歳～14 歳) 義務教育 中学校(4 年・12 歳～16 歳) 計 12 年
1943(昭和 18)	第 4 次朝鮮教育令 内鮮一体 中等学校令(国内)	国民学校(6 年・6 歳～12 歳) 中学校(4 年・12 歳～16 歳) 計 10 年	中学校(4 年・12 歳～16 歳) 計 10 年 (2 年・14 歳～16 歳) 計 10 年 (3 年・14 歳～17 歳) 計 13 年

(5)

朝鮮総督府版教科書の多くは、内地文部省版を翻刻改訂することで成り立っている。その「翻刻改訂」の在り方は、文部省版と単元内容が同じであるにもかかわらず挿絵や文言を朝鮮式に差し替えたり、句読点の位置や助詞・副詞・用言・音便等の使用法を変えたりしているものである。朝鮮総督府版のこうした背景には、日清戦争後による植民地での国語教育の先駆となった台湾総督府版教科書が目指した極端な音声中心主義的な教科書作成思想と、内地の文部省版との間で中間的なバランスをとろうとする意志を伺うことができる。朝鮮総督府編纂教科書と文部省版の刊行を俯瞰すると下表のとおりになる。

年	朝鮮教育令	文部省教科書	朝鮮総督府教科書	備考
1904(明治 37)		第 1 期国定教科書		日露戦争 第 1 次日韓協約
1905(明治 38)				第 2 次日韓協約 統監府
1906(明治 39)	普通学校令 8. 29			
1907(明治 40)			旧学部(韓国)編纂本	
1910(明治 43)		第 2 期国定教科書	訂正本	日韓併合 8. 22 寺内正毅総督
1911(明治 44)	第 1 次朝鮮教育令 8. 23			教育勅語下付 10. 24
1912(明治 45)			第 1 期朝鮮総督府編纂本	
1918(大正 7)		第 3 期国定教科書	部分改訂本	
1919(大正 8)				3・1 独立運動 騒擾事件多発 斎藤実総督
1920(大正 9)	第 1 次朝鮮教育令一部改正			
1922(大正 11)	第 2 次朝鮮教育令			
1923(大正 12)			第 2 期朝鮮総督府編纂本	
1929(昭和 4)	第 2 次朝鮮教育令改正			
1930(昭和 5)			第 3 期朝鮮総督府編纂本	
1930(昭和 8)		第 4 期国定教科書		
1937(昭和 12)			部分改訂	日中戦争 7
1938(昭和 13)	第 3 次朝鮮教育令			
1939(昭和 14)			第 4 期朝鮮総督府編纂本	
1940(昭和 15)				創氏改名施行 2
1941(昭和 16)	第 3 次朝鮮教育令改正	第 5 期国定教科書		対米開戦 12
1942(昭和 17)			第 5 期朝鮮総督府編纂本	
1943(昭和 18)	第 4 次朝鮮教育令			

(6)

併合によって旧学部編纂普通学校教科書の表記を変更する必要になった。そのため、学務局は「旧学部編纂普通学校用教科書字句訂正表」（『教授上ノ注意竝ニ字句訂正表』内務部学務局、明治43年）を作成して配布した。そしてこれが同化政策への道標となったのである。

旧学部編纂普通学校用教科書字句訂正表（『教授上ノ注意竝ニ字句訂正表』内務部学務局、明治43年）										
『修身書』『日語読本』『国語読本』『漢文読本』『理科書』『習字帖』より										
原文	韓国	韓国	我国	우리나라	我朝	本朝	我国人	韓清	日本	日本
訂正文	朝鮮	朝鮮半島	朝鮮	朝鮮	李朝	李朝	朝鮮人	日清	我国	内地
原文	日本国	日本人	外国人	漢城	日語	国文	国	隆熙	我韓과日本	我国と日本
訂正文	内地	内地人	内地人	京城	国語	諺文	処	明治	内地와朝鮮	我帝国内
原文	第16課 乾元節	第15課 漢城	韓日清三国人	漢城은我国의首府						
訂正文	全課削除	全課削除	日清両国人	京城은朝鮮總督府所在地						

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 長澤雅春	4. 巻 53
2. 論文標題 釜山広域市立市民図書館蔵 日帝期和書目録(4/完)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 佐賀女子短期大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 183-194
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長澤雅春	4. 巻 第51集第2号
2. 論文標題 釜山広域市立市民図書館蔵 日帝期和書総目録(2)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 佐賀女子短期大学紀要	6. 最初と最後の頁 p301-p319
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長澤雅春	4. 巻 第52集
2. 論文標題 釜山広域市立市民図書館蔵 日帝期和書総目録(3)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 佐賀女子短期大学紀要	6. 最初と最後の頁 p133-p144
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長澤雅春	4. 巻 50集第2号
2. 論文標題 釜山広域市立市民図書館蔵 日帝期和書総目録(2)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 佐賀女子短期大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 301-319
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長澤雅春	4. 巻 50
2. 論文標題 釜山広域市立市民図書館蔵 日帝期和書総目録(1) 『朝鮮関連解放前日書篇』より	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 佐賀女子短期大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 p233-p246
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長澤雅春	4. 巻 41
2. 論文標題 併合下の朝鮮映画史『韓国映画側面秘史』を読む 映画製作秘話の貴重な回想録	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 社会文学	6. 最初と最後の頁 p109-p112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉原ゆかり	4. 巻 1
2. 論文標題 「帝国日本の英米文学高等教育 台北帝国大学、京城帝国大学、東京師範学校を中心に」	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 科学研究費研究課題報告書(2014年度)	6. 最初と最後の頁 p7-p21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 1件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 長澤雅春
2. 発表標題 1920年代朝鮮教育下の朝鮮映画の主人公たち
3. 学会等名 国際語文学会（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 長澤雅春
2. 発表標題 崔洋姫氏の語る父崔載瑞と『国民文学』の記憶
3. 学会等名 東アジア日本学会（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 長澤雅春
2. 発表標題 日韓関係の将来と展望 資料研究から読み解く
3. 学会等名 慶南大学校日語日文学会（招待講演）
4. 発表年 2014年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

近代日本と韓国・朝鮮半島 http://www.swrk.jp/korea/

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考